

経営者の社会的使命(ミッション)を考える

—「意思決定」と「実行」—

株式会社 開倫塾

代表取締役社長 林明夫

明けましておめでとうございます。

- (1) 東京の経済同友会の会員でもある私は、このところ毎月のように都内の公立中学校から依頼を受け、総合学習の時間などで出張授業をさせて頂いている。
- (2) 例えば、①仕事の内容、②仕事を選んだ理由、③仕事をしてうれしかったこと、④今の社会の流れ、今どのような人材が必要とされているのか、⑤仕事に臨む心構え、⑥働くことの意義などを述べたあと、⑦自分の中学時代の夢や、⑧中学時代に身に付けておくといふことを、50 分の授業の中で中学 2 年生にわかりやすく説明し、生徒とディスカッションするといふ依頼もある。
- (3) 上の①～⑤は、すべて企業経営の本質に関することで、真剣に考えれば考えるほど胸に迫ってくる。
- (4) 経営者の仕事、つまり社会的使命(ミッション)は何かと問われれば、ドラッカー先生の言われる通り、①「意思決定」と②「実行」に尽きるのではないかと、中学生に話しながら確信を深めるようになった。

教えさせて頂くことは学ばせて頂くことであると、実感する今日このごろである。

- (5) 2007 年は、①小泉改革で始まった日本のイノベーションが官民公あらゆる分野で徹底される年。②日本と各国との F T A や E P A が、栃木県経済や各企業の経営に直接影響を及ぼし始める年。③企業や自治体、ありとあらゆる組織が、世界や日本の動きをどんどん読み続けながら、自らの強み、独自性を最大限発揮、イノベーションを徹底して初めて存立を許される年。

経営者や自治体シッポの社会的使命(ミッション)としての「意思決定」と「実行」の真の意味が問われる年が、2007 年であると考えてる。

本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

— 11 月 26 日宇都宮大学図書館にて記す—